大分県看護協会災害支援ナース実践マニュアル

2019 年度

公益社団法人大分県看護協会

はじめに

大分県看護協会災害看護委員会は、災害支援活動を行うにあたり「災害支援ナースの役割を理解し、自律した活動ができる」ためのマニュアルを作成しました。

災害支援ナースとして、派遣先で、看護の視点でマネジメントとリーダーシップが発揮できるために、このマニュアルをご活用ください。

１．災害支援ナースとしての望まれる資質

行動力	目の前にある事象に対して行動できる
実行力	自分の考えを行動に移すことができる
協調性	チームワークの重要性を理解し自分勝手な行動をしない
人間関係調整能力	災害という非日常の環境の中で、看護をスムーズに展開するための精神的なフォローを含めた関係調整がとれる
リーダーシップ	自分と自分を取り巻く環境を客観的に捉える
臨機応変の対応	災害時には予想外の出来事が多く発生するため、その状況に合わせた対応が必要とされる
主体性	指示や要求を待つのではなく自ら考えて行動できる

２．派遣が決定したら

１）心構えを再確認

(1) 何でもやる
(2) なるようになる
(3) 派遣期間でやれる範囲のことをやろう
(4) どこでも眠れる、何でも食べられる、どこでも排泄できる
(5) 自分の感情を自覚する
　・自己欲求のための活動ではないことを自覚する

２）出発までに情報収集

(1) 看護協会から現地の情報を確認
(2) マスメディアからの情報収集
(3) 被災地の歴史的背景や風土、文化、気質などを理解する

３）携行品の確認・準備

災害支援ナースハンドブック参照

３．被災県へ出発

１）大分県看護協会担当者への挨拶

２）チームメンバーとの連携

（1）短時間でのミーティング

（2）連絡先交換

（3）各メンバーが知りえる情報の共有

４．被災県に到着

１）被災地の状況確認

２）チームメンバーとの連携

（1）短時間でのミーティング

（2）基本二人一組で活動（リーダーを決めておく）

（3）冷静な態度を心がける（気持ちを態度に出さない）

３）被災県内の支援要請施設の確認

（1）医療機関、社会福祉施設、避難所など、派遣先を確認

５．被災県での行動

＊現地のスタッフも被災しており、配慮ある言動や行動が必要

１）被災県の看護協会員に挨拶

２）支援要請施設での活動：医療機関

（1）災害対策本部または看護部への挨拶

（2）活動中の調整窓口、または責任者の確認

（3）活動場所・活動内容の確認

（4）活動時間の確認

（5）活動時の留意事項の確認（実践の範囲・責任、服装、食事、休憩時間、休憩場所）

（6）活動プランニングを行う

・受け入れ側の施設の状況を傾聴する

・良好なコミュニケーションを構築する

・高揚感を抑えて活動する

・支援要請を前提とした活動を心がける（でしゃばらない）

３）支援要請施設での活動：避難所等

（1）避難所の責任者へ挨拶

（2）活動時の留意事項の確認（食事、休憩時間、休憩場所など）

（3）避難所の情報収集

・建物の現状（ライフラインの状況、余震時の情報発信方法、避難経路、外部との通信手段など）

・避難施設の運営状況（行政の担当者の確認、医療支援方法の確認、人員確認、物流、ボランティア数の確認など）
・避難者数の確認
・避難者の名簿、構成の確認
・医療ニーズの調査
・避難所の環境（入所者の基本的ニードは充たされているのか）

（4）活動前に考えること
・手当たり次第に活動を始めない
・活動をプランニングし、担当者へ調整・交渉する

（5）情報をアセスメントして介入
①環境調整
・避難者、特に高齢者の ADL が低下しないようなレイアウト（動線の確保）
・病弱者・障害者・妊産婦・乳幼児などの配慮（排泄場所、授乳場所などの確保）
・安全管理・感染管理に配慮（必要に応じ衛生指導）
②健康問題への支援
・水分摂取の促し（エコノミークラス症候群の予防）
・トイレ環境の改善
・効果的な運動指導（他の支援団体との協働も視野に）
・避難者が使用している医薬品の把握（降圧剤、インスリンなど）
・検温等は、目的をもって行う（必要と思われる避難者に対して行う）
・潜在的な健康問題の発掘（見て・聞いて・考える）

（6）支援者との共通認識・情報共有
・情報を共有することで継続的なケアを実践
・他の支援団体との良好なコミュニケーションの構築

4）支援要請施設での活動：社会福祉施設等

（1）施設の責任者への挨拶
（2）活動時の留意事項の確認（食事、休憩時間、休憩場所など）
（3）他職種との協働であることを意識し活動する
（4）専門用語の使用は控える（他職種共通認識できる表現をする）
（5）ケアの優先度を判断
・生命維持に関するケアのニーズ（合併症予防、回復過程の促進、安全管理など）
・苦痛緩和に関するケアのニーズ（鎮痛、安楽、活動／休息、日常生活援助など）
・健康維持管理に関するケアのニーズ（健康管理教育、行動変容など）
・心理・社会面に関するケアのニーズ（コンサルテーション、ソーシャルサポートの活用など）

（6）活動プランニングを行う
・施設側と入所者のニーズに合わせる

（7）もてる資源を把握する（医療機関とは異なることを念頭に置く）
（8）不足している資源の入手

・どこに・誰に報告・連絡・調整すれば課題解決に至るのか考える

５）後続チームへの引き継ぎ

（1）後続チームとの引き継ぎは直接行うことが望ましい

（2）後続チームのオリエンテーションも支援ナース同士で行う（オリエンテーションが支援先施設の負担になるため）

（3）引き継ぎ書類の提示（継続看護が必要な入所者の申し送りなど）
被災地にない場合は大分県看護協会の「災害支援ナース活動・引き継ぎ基本情報」を使用

（4）正しい情報のみを伝える（個人的な憶測は混乱を招くため）

６．派遣終了

１）活動の振り返り　（活動者）

（1）どのような成果が得られたか

（2）反省点・改善点・また看護介入して良かったことなど、自身で記録しておく（記憶より記録）

２）大分県看護協会への活動報告　（活動者）

⑴必要書類の提出

⑵大分県看護協会からの貸し出し物品の返納

３）派遣先の施設へ派遣終了の挨拶　（大分県看護協会）

４）日本看護協会・大分県への報告（大分県看護協会）

５）派遣者へのフォローアップ　（大分県看護協会）

⑴災害支援ナースのこころのケア（派遣終了後各施設と連携し対応する）

⑵臨床心理士の活用

⑶派遣終了後振り返りのための会を企画